

防災公園街区整備事業の事例

さいたま新都心公園（埼玉県さいたま市）

～環境・景観に配慮した広域防災拠点機能を強化する防災公園の整備～

防災性向上

未利用地活用

市街地：建築敷地の整備

地域の広域防災拠点機能を強化

公園空白地域解消の先導プロジェクトとして、災害時の一時避難地機能を有し、さいたまスーパーアリーナや国の機関との連携によりさいたま新都心の広域防災拠点機能を強化する防災公園を整備しました。

周辺との一体的な整備による良好な景観形成

1.0haの限られた面積の中で、地域に必要な防災機能を兼ねつつ、周辺施設とのデザインの統一や地域植生・在来種を考慮した植栽計画による周辺の緑地・公園と連携したみどりのネットワークの構築など良好な景観形成に努めました。世代を問わず地域に愛されるオープンスペースが確保されている点が評価され、平成30年度全建賞を受賞しています。

（主催：一般社団法人全日本建設技術協会）



地域の方が利用できる多目的スペースを備えた管理棟



開放的で空間的な広がりを感じることができ、平常時は憩いの場として利用されている芝生広場

緊急車両の乗入れが可能で、透水性・保水性機能によるヒートアイランド現象緩和と雨水涵養・貯留に寄与している



隣接する造幣局との舗装デザインの統一による一体的な景観形成



隣接する造幣局にちなんだ硬貨をモチーフとした遊具



災害時には仮設テントとして利用できる防災パーゴラ